



3月も中旬となり、校庭の梅、サクラソウ、菜の花が咲きそろいました。いよいよ春を迎える期待あふれる時期であると同時に、別れが近づく寂しい時期でもあります。年度末という節目に向かい、達成できていない部分がないか、やり残したことがないかを確認し、目標達成を成し遂げた上で新しい年度を迎えたいと思います。今回は2つの行事の取組を紹介します。児童にとって、どちらも今の自分を見つめ直し、成長を確かめる貴重な機会になりました。年度末に向けて1日1日を大切にしていきたいものです。



◆ 全校児童の心の結集「6年生を送る会」 3月5日(月)

5年生が中心となって企画・準備・運営を行い、「6年生を送る会」を実施しました。各学年も6年生へ感謝の思いを込めて合奏・寸劇・呼びかけ等の“出し物”(発表)を行いました。6年生一人一人へプレゼント贈呈も行われ、6年生からも寸劇をまじえて下級生へメッセージが贈られました。一体感のある温かい会となりました。



■ 「6年生を送る会」プロジェクトリーダー 5年1組 大島琴寧さん ■

練習の時によくできなかつたところ、よくできたところ、もう少し直した方がいいところをみんなで確認して、少しずつ直していきました。準備では、みんなが協力してできたので良かったです。私が中心になり、みんなを引っばっていくことができたと思います。本番では、みんな練習したとおりにがんばっていました。6年生に思いがとどくように一生けん命がんばりました。

■ 6年生代表 6年2組 佐藤百華さん ■

昨年度まで、毎年、私たちは6年生を送る側でした。ですが、今回初めて送られる側となって感じたことがたくさんありました。うれしさもあり、少しさみしさもあり…。私は代表してお礼の言葉を述べたのですが、感動のあまり、言葉を全て忘れてしまいました。6年生の中には泣いている人もいました。本当に素晴らしい会でした。私は、この6年生を送る会のことを一生忘れずに、これからも頑張りたいです。

◆ 「命をつなぐ」サケの放流 3月6日(火)

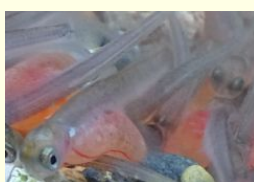
本校でサケの放流が最初に行われたのは、記録を調べたところ平成10年3月4日。その後、毎年行われてきたとすると今回は21回目ということになります。これだけ長い期間、活動が引き継がれてきたことは素晴らしいことです。しかも本校では、全ての教室に水槽が置かれ、全ての学級で飼育・観察が行われています。しかもその活動は、飼育委員会が中心になって行われる児童主体の活動です。さらに、城東幼稚園、城東保育所と連携し、それぞれで飼育したサケと一緒に放流に行くという地域をあげた幅広い活動になっています。「サケ学習」を「総合的な学習の時間」の一部に位置づけ、10年以上にわたって東洋大学教授(元茨城大学)の大辻永先生をお招きして学びを広げ深めています。これだけの学習活動を展開している学校は全国的に見ても少ないと思われます。この貴重な取り組みを今後も継承、発展させていきたいと思っています。



12/1 那珂川第一漁業協同組合より卵をいただきました。



1/4 卵の中に目が見えます。尾を出しているものもいます。



1/24 卵から孵化した仔魚。お腹に栄養が入った袋が付いています。



2/28 泳ぎ回り自分で餌を食べるようになった稚魚。体に斑点が現れます



3/1 大辻先生を外務講師としてお招きして3年生で授業を行いました。

■ 飼育委員会委員長 6年2組 坂本彩光翔 ■

12月から今日まで、大事に育ててきたサケを放流できてよかったです。サケの卵を受け取ったときは、こんな小さな命が生きていくんだなあと命の重みを知りました。卵から稚魚まで育てて、たくさんのことを学べてよかったです。



3/6 城東幼稚園、城東保育所の幼児と一緒に寿橋下流約100mの那珂川河岸で放流しました。